

[I] 次の文を読んで、それぞれの問について最も適当なものを選び、その記号をマークしなさい。なお、図は四つの図から構成されており、右下の図は一般的な海流などの分布を、これ以外の三つの図は瓦礫の移動変遷のシミュレーション結果を示している。

2011年3月11日東日本大震災の際の津波による瓦礫の海洋放出後、この瓦礫は海洋を漂流し、瓦礫の種類によるが同年内に一部は北アメリカ西岸に漂着している。放出された瓦礫の漂流過程は国立の研究機関によって予測されている。三つの図には①海面下・海面上同容積の瓦礫の漂流プロセスを示している。左上の図は津波翌年2012年夏、左下の図はその翌年2013年冬、右上の図はその夏のものである。

漂流過程は海面付近の風と海流の方向と速度で主に決定される。漂流する方向と速度は大気と海流の大循環と密接な関係を持つ。右下の図の**M**は太平洋① [(ア) 高気圧 (イ) 低気圧] の中心位置を示す。これは季節変動するが、両半球の太平洋① [(ア) 高気圧 (イ) 低気圧] から②吹きだす風が、右下の図の海流**A**と**B**で示した海流を生み出している。海流**A**は西流し、時計回りに回転して海流**C**となる。この海流**C**は北上するが、東日本沖で反時計回りで南下してきた海流**D**と③潮境を作り、東進して亜熱帯循環北縁をなす海流**E**となる。これはやがて北流する海流**F**と南流する海流**G**に分かれ、海流**G**はやがて、海流**A**に吸収される。

東日本大震災の洋上瓦礫は風と海流によって運搬されている。2012年夏の図では主に海流④ [(ア) **A** (イ) **C** (ウ) **E**] に乗って北アメリカ西岸まで瓦礫が続く。この海流沿いの洋上瓦礫の幅は2013年冬の図では痩せている。2012年の夏の図では洋上瓦礫は、海流⑤ [(ア) **E** (イ) **F** (ウ) **G**] によって、北アメリカ西岸の南よりに多く漂流している。

2013年冬の図では洋上瓦礫は、海流④ [(ア) **E** (イ) **F** (ウ) **G**] によって北に伸び、北アメリカ西岸および西方で広く拡散している。太平洋西縁付近では洋上瓦礫の主部は東日本から離れて、⑤ [(ア) 黄 海 (イ) 東シナ海 (ウ) 南シナ海] に流れ込んでいる。2013年夏の図では洋上瓦礫は更に拡散しているが、南縁は海流⑥ [(ア) **B** (イ) **C** (ウ) **E**] によって、比較的明瞭な瓦礫分布の境界線が作られている。

問(A) 文中の① [] ~ ⑥ [] 中の語句から最も適当なものを選びなさい。

問(B) 下線①に対応する瓦礫の種類は次のいずれのものと考えられるか。

- (ア) 流木や海水を十分に含んだ木材など
- (イ) 養殖や定置網漁に使われているフロートやブイ
- (ウ) 家屋が壊れて生じた板や水船状態の漁船など

問(C) 下線②に該当するものを一つ選びなさい。

- (ア) 偏西風 (イ) 貿易風 (ウ) 極偏東風

問(D) 下線③の出現位置として最も適当な場所は次のいずれか。

- (ア) 牡鹿半島沖 (イ) 伊豆半島沖 (ウ) 紀伊半島沖

問(E) 海流**E**の名称は次のいずれか。

- (ア) 黒潮 (イ) 北太平洋海流 (ウ) カリフォルニア海流

